

受け継がれる

郷土の偉人「石川丈山」の世界

安城市立丈山小学校長 柴田 辰之

安城市立丈山小学校は、安城市の南部に位置する和泉町にあり、学校名に人物の名前が入る珍しい学校です。その人物は、「石川丈山」。和泉町の誇る郷土の偉人です。

丈山は、武士として徳川家康に仕え、多くの手柄を立てた逞しい武人でした。また、江戸時代初期を代表する漢詩人であり、隷書をわが国で初めて取り入れた書家としても知られるほか、作家でもあり、煎茶（文人茶）においては日本の開祖であると言われ、文人としても高い評価を受けています。

そのような文武の道で名を残した丈山は、地域の誉として今もなお大切に受け継がれています。

丈山小学校の児童も、毎年、修学旅行や校外学習、総合的な学習の時間などの教育活動を通して、石川丈山の人物像やその世界にふれ、学んでいます。

なかで自分の進むべき道を見つけたのです。

郷土の偉人 石川丈山

石川丈山は、安土桃山時代、天正11年（1583）に石川信定の長男として三河国碧海郡泉郷（現在の安城市和泉町）に生まれました。

丈山は、熱心に武術の稽古に励み、16歳で元服して徳川家康の近習となり、その後関ヶ原の合戦などで、数々の手柄をたてています。

その後、「大坂夏の陣」で先登（一番乗り）を切り功績を上げますが、軍令違反に問われ蟄居しました。

丈山はこれを契機に武人としての悩みをとき、学を志すようになりました。そして、朱子学者の林羅山を介して藤原惺窩と出会い、儒学の教えを受ける

ています。邸内は、探幽の「画」、丈山の「賛」と伝えられる三十六詩仙の詩仙堂額（複製）をはじめ、隷書体の書幅など、丈山の感性をしのぶことのできる雰囲気醸し出しています。

庭園は、丈山の作庭した詩仙堂、東本願寺渉成園（枳殻邸）、田辺の酬恩庵（一休寺）の三庭園をイメージし、唐様庭園・回遊式池泉庭園・蓬萊庭園を組み合わせた本格的なものであり、処々に丈山の漢詩碑も配しています。

丈山は69歳の時、故郷和泉郷に帰ることを京都所司代に願ひ出たが、許されませんでした。その望郷の念を受け、和泉にある丈山翁像が、今度は京の方向を振り返って見えています。

丈山苑では、竹林の中の詩泉閣等の



詩泉閣<丈山苑>



児童抹茶体験<丈山苑>

母に孝養をつくすため、やむなく広島藩の浅野家に学者として仕えますが、母が歿した後は京都へ帰り、一乗寺に詩仙堂を開き、林羅山らの文人と交友し、漢詩・書・作庭、また煎茶の世界において、江戸初期の文人として活躍しました。

丈山が終の栖として建てた詩仙堂。丈山は、林羅山と論議して意を通し、中国の漢・晋・唐・宋時代の詩人36人とその漢詩を選定し、「三十六詩仙」とします。詩仙の絵は狩野探幽に描かせたと伝わり、各詩仙の詩は丈山が隷書体で板に書き額にし、部屋に鴨居の上四方に掲げます。この部屋を「詩仙の間」と称し、詩仙堂の名の由来となりました。

建物・書幅・石碑・庭園を眺めながら「茶」をすることにより、漢詩人・書家・作庭家・茶人と、それぞれの風雅を究め、仙人のように生きた丈山の世界を堪能することができます。

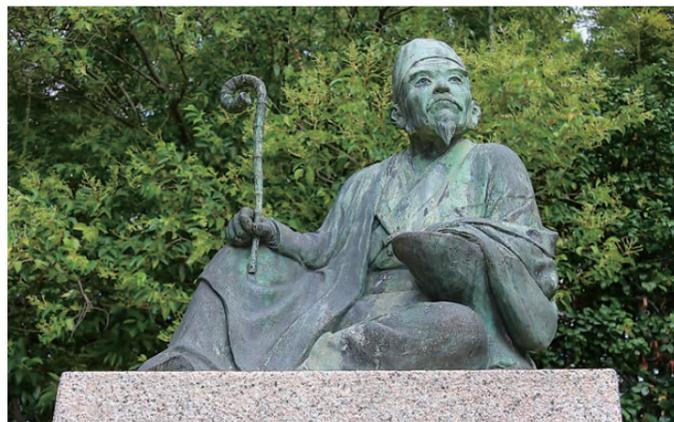
本校から徒歩で約5分の距離にある丈山苑で、児童は苑をモチーフにした写生を行ったり、抹茶を体験したりして、丈山の世界を感じています。

睡竹堂時代の丈山を偲ぶ 丈山文庫

丈山苑の北西約300メートルのところに、丈山文庫があります。丈山文庫は、昭和44年（1969）、愛知教育大学名誉教授神谷義郎氏が私財を投じて、京都市左京区田中野神町「睡竹堂」跡から、建物「学甫堂」を始め、丈山ゆかりの石灯籠やつくばい（手水鉢）などを搬入するとともに、丈山に関係した書籍や資料を数多く集めて石川丈山を学ぶ場として設立されたものです。

丈山は、広島から京都へ帰り、終世隠棲の地を求め、後に一乗寺に決定するまでの間は、相国寺畔の「睡竹堂」に住んでいました。その屋敷に「学甫堂」という萱葺きの3畳の建物をたてて書齋としていたのです。

児童は、丈山文庫にも毎年訪問し、



丈山翁像<丈山苑>

丈山は、詩仙堂において、贅を求めず、自然を愛し、心を豊かにして何物にも屈しない自由を求めようとして自己を育てました。そして、文人としての生涯をここで送り、独身を貫き90歳の天寿を全うしました。

毎年、丈山小学校の児童は修学旅行で京都の詩仙堂を訪れ、郷土の偉人・石川丈山について学習をしています。丈山小学校は昭和46年に開校し、50年以上経ちますが、当時の修学旅行から詩仙堂を訪問し、学習していることが幾人かの卒業記念文集の記録から分かります。特別に団体での見学を受け入れていただいている詩仙堂の訪問は、今でも引き継がれています。



学甫堂<丈山文庫>

責任者の神谷氏より丈山文庫の資料の説明だけでなく、石川丈山の生い立ちや武士としての活躍、漢詩や隷書の勉強に励んだ文人としての丈山について詳しく聞くなど、大変貴重な経験をすることができています。

おわりに

郷土の偉人石川丈山を偲ぶ場所やもの、そして丈山を語り継いでいる地域の方々を大切にしている和泉町。本校の児童には、その思いを受け継ぎ、これからも学校や地域を愛する人に育ってほしいと願っています。

主な参考文献 「和泉町の歴史」「丈山苑案内記」